

事 例 報 告

報告者： 第2はまゆう療育園 (辻川章)

| | | | |
|--|--|--|--|
| 対象者 | 中学校 特別支援クラス在籍 男女5名 (①、②、③、④、⑤さんで記載) | 相談日 H24年12月4日 相談方法 (来所、電話、 <u>文書</u> 、FAX、訪問) 経由機関 ○○保護者会 | |
| 現住所 | 天草市 <small>※現住所は、個人情報保護の観点から市・町名までの記入とする。</small> | [家族構成] 年齢・主介護者・他の介護者 | |
| 障害手帳 | (身体) (種 級) (<u>療育</u>) () 精神 (級) | | |
| 診断名 | 精神発達遅滞・自閉症・脳性麻痺・等々 | | |
| 障害年金 | 受給 (<u>受給なし</u>) | | |
| その他特記事項 | | | |
| 現在受けているサービス | | | |
| 相談支援事業所の利用の有無 (事業所名) | | | |
| (<u>有</u>)・無 (第2はまゆう療育園) | | | |
| 相談内容 | | | |
| ※保護者からの声を、担当でまとめています。 | | | |
| 内容： | | | |
| ① 特別支援学級での個別の指導計画等の作成において、内容や今後の活用等について、保護者と学校との十分な連携がとれていないため、作成が遅れることがある。また、保護者への聞き取りもないので、作成されているか不明な点もある。 | | | |
| ② 子どもが言葉での理解が難しいので、メモの利用をお願いするが、子どもに指導する際、言葉での指示が多く見られる。子どもがもっている困り感を解消できるように、発達検査の結果を生かした指導方法を十分に検討してほしいときがある。 | | | |
| ③ 学校から配付される時間割や学級通信等の配付が定期的ではないので、学習内容や学校内のことが伝わりにくい。学級懇談会や特別支援部の保護者懇談会等が計画的に行われないうちがある。学校での子どもの活動の様子が家庭・保護者に伝わりにくい。 | | | |
| ④ 学校行事(体育大会や学年行事等)や特別支援学校見学等における子どもの参加・不参加について、学校側の意向や配慮されたことが伝わりにくい。保護者に対しては事前に、詳しく、確実に連絡してほしい。 | | | |
| 家族の要望： | | | |
| (続柄：各母親) | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級の子どもの課題や困り感を把握し、言葉かけや対応の仕方など、配慮が必要な事項については、職員間で共通理解を図り、適切な対応をしてほしい。 ・特別支援学級の子どもたち一人一人の障害の程度や課題について、学校全体での理解を深めてほしい。校内研修の充実や外部からの支援・指導、各研修会等への参加を通して、特別支援学級担任やコーディネーターだけでなく、全ての職員が特別支援教育について学ぼうとする意識を持ってほしい。 ・個別の支援計画、個別の指導計画等、子どもに必要な計画等の作成については、保護者にも内容等について、できるだけ具体的に説明してほしい。学年が変わって、計画の見直しや修正などで保護者の協力が必要なときは、保護者にも事前の連絡や説明を確実にを行い、適切な経緯を踏んで作成してほしい。また、発達検査の結果など、子ども本人への指導に役立つものは有効に活用してほしい。 ・進路に関する情報や、特別支援学校の見学案内等、必要な情報はできるだけ多く保護者にも伝えてほしい。保護者としては、できるだけ多くの情報を知りたい。 ・授業や学校行事等、子どもの学校での様子を、学級通信等で保護者にも積極的に知らせてほしい。時間割についても、学習の流れや内容がわかるように、具体的・継続的に作成してほしい。 ・授業参観や学級懇談会等を活用して、保護者とのコミュニケーションをとる機会をできるだけ多くとってほしい。学校・家庭が協力し、子どもにとってよりよい環境づくりができるよう、共通理解の場を積極的に設けてほしい。 | | | |

対応者の所見・その他情報

天草市特別支援教育総合推進事業の中に5つの重点項目が設定されており、その中に長期的見通しをもった個別の指導計画・支援計画の作成がうたわれている。その項目もさらに「教育支援計画に基づく個別の指導計画を必要な子どもについて作成されている」「現在から就労まで長期的見通しを持った個別の支援計画を必要な子どもについて作成している」「個別の指導計画等の内容は全職員が理解し、保育、教育に生かしている」「個別の指導計画は、学期ごとに評価、修正している」と細分化され、特別支援教育推進のための努力を求められている。

特に、「個別の教育支援計画」は保護者確認欄もあり、学校側と家庭とが連携しながら「教育」「子育て」を進めていくことが必要である。作成においても、学校側だけで作られるものではなく、保護者への十分な説明のもと共通理解を図りながら支援目標、支援内容の充実を図る必要がある。また、学校で自分の子どもがどういった方向で学習しているのか知りたいという保護者の願いが叶うように、学校側の取組や教育内容を保護者と共通理解できる場の充実を図る必要がある。

対応状況

定例会で事例を共通理解後、児童部会で対応を検討する予定

情報提供のみ

他機関連携（連携機関：天草市教育委員会・特別支援校・天草市社会福祉課・子育て支援課）

支援終了

継続支援

現在かかえている課題

本人の課題：

地域に向けた課題：それぞれの学校で、本人や保護者の願いを共通理解するために関係者を集めた「担当者会議」を実施されているという熱心な学校もあれば、まだまだそこまでには至っていない学校もあるという「意識格差」が大きいと思われる。